

令和5年度科学研究費助成事業「学術変革領域研究（A）」に係る中間評価結果

領域番号	20A401	領域略称名	深奥質感
研究領域名	実世界の奥深い質感情報の分析と生成		
領域代表者名 (所属等)	西田 眞也 (京都大学・大学院情報学研究科・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)

(評価結果の所見)

深奥質感を科学的に理解し、工学的に実現し、アートとして表現し、その結果を社会に還元することを目指すという目標は着実に進展している。深奥質感の概念をブラッシュアップし、三つの基本軸で整理した深奥質感の定義により、全てのテーマの方向性や評価軸が明確になっている。このように、幅広いテーマで、情報科学と神経科学の連携など、領域内連携や領域間研究が活発に行われており、アウトリーチ活動や若手育成なども積極的に行われている。質感認識ネットワークによって、そのマルチモダリティーをその本質としてとらえている点は独創的な視点であり、マルチモーダル AI の進展などによる、新たな研究連携へ展開することで、今後の突破口になる可能性はある。

一方、五感の統合的感覚として深奥質感を捉える試みは非常に野心的であるが、「質感」とは何か必ずしも明確でない。改めて質感又は深奥質感を定義した上で、その統合的理解につなげていくことが求められる。また、求心力を高めるようなマネジメントの工夫が必要であり、展開されている多様なテーマを集約し、新たな学術領域の構築に向け推進していくことが望まれる。